

まつやま発！ 産・学・民・官・金による“持続可能なまちづくり”のための地域課題解決プロジェクト！		取組開始時期	令和2年7月	取組の カテゴリ	地域活性化
---	--	---------------	--------	---------------------	-------

1. 団体名	松山市	2. 連携先の団体	「松山市SDGs推進協議会（R2.11.2現在：123団体が加盟）」および「スマートアイランドモデル分科会(123団体中の17団体で構成)」		
---------------	-----	------------------	--	--	--

3. 取組目的	地域で暮らす、地域に関係する多様なステークホルダーのパートナーシップで自分事として地域課題の解決に取り組み、“全員参加”で持続可能な地域を創る	4. 関連するゴール			
----------------	---	-------------------	---	--	--

5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

市内だけでなく市外・県外の企業・大学・NPO・行政・金融機関など多様な団体で形成するSDGsプラットフォーム「松山市SDGs推進協議会」（令和2年7月末キックオフ）を軸に、協働で地域課題解決に向けた事業を実施。

協議会の取組内容

(1)セミナー（カフェ）やワークショップ（未来工房）等で情報共有・コミュニティ形成

- ・セミナー等でSDGsに関する知見や先進的な取組を学び、地域課題を共有。
- ・ワークショップでテーマに沿った地域課題を解決するプロジェクトの可能性を考察。

(2)分科会でプロジェクトを実践

目的を共有する団体で分科会を設置し、プロジェクトを実践
★先行分科会『スマートアイランドモデル分科会』が活動開始！

(3)多様な主体でプロジェクトを推進

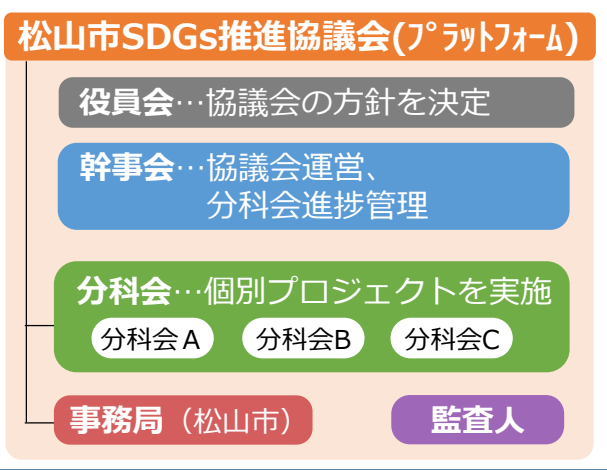
会員団体や松山市SDGsサポーターズクラブ(個人会員)など多様な主体と取組情報を共有しプロジェクトを推進

(4)情報発信・他地域への横展開

様々な媒体や組織を通じて、取組などを国内外へ発信し「松山モデル」として他地域へ横展開。

<令和2年度開催状況>
『第1回まつやまSDGsカフェ』
SDGsに関する世界情勢の講演・企業やNPOのSDGs実践をパネルディスカッション

協議会の仕組み



期待される効果～自律的好循環～



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

- ★国内外への情報発信を通じた地域や企業のブランド力向上
- ★金融機関・企業・個人の投資や寄付などの活用
- ★人材発掘・人材確保
- ★自立的好循環の形成（地域課題解決と参画団体の利益確保）

ステークホルダーとの連携

- ★様々な地域、様々な属性の団体が広く参画し、多様な視点から、知恵や人材、ソリューションを出し合いプロジェクトを実施。
- ★先行の「スマートアイランドモデル分科会」は、17団体がノウハウや強みを最大限に活かし、自身の持続可能性も高めつつ住民と連携し、自分事として地域課題の解決を図る具体的な事業を実施。

モデル性・波及性

- ★多様なステークホルダーとの協働事業で地域課題の解決を図る点。
- ★個人の受け皿を作ることで、地域住民・地元出身者・関係人口とも連携できる点。
- ★先行分科会の舞台となる瀬戸内海の島「中島」は、人口減少、エネルギーの脆弱性等、地方都市の普遍的課題を有する点。

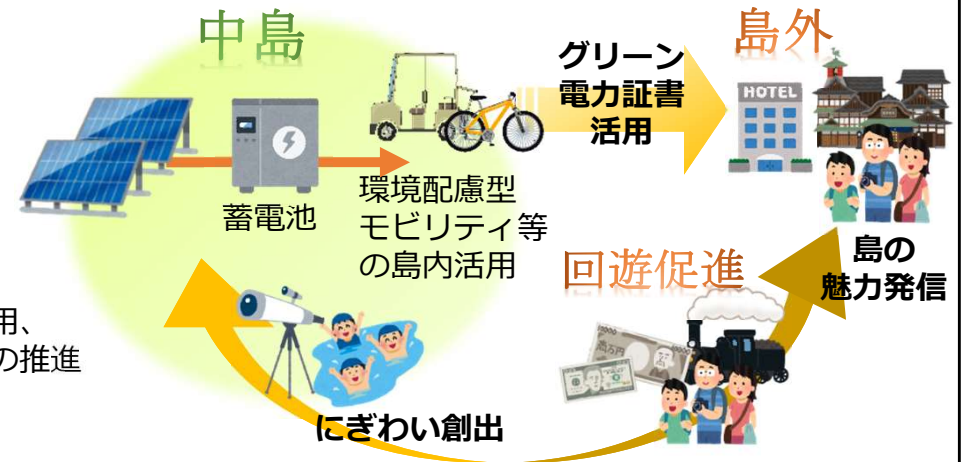
自由記述欄

【先行分科会】松山市SDGs推進協議会 スマートアイランドモデル分科会 活動概要

<p>設置の目的</p>	<p>離島・中島が抱える人口減少や少子高齢化、エネルギーの脆弱性などの地域課題を解決し、将来にわたって持続可能なスマートアイランドを実現する</p>
<p>目指す姿 ゴール</p>	<p>【環境】豊かな自然環境との共生 【社会】快適で安全安心な暮らし 【経済】島のにぎわい の同時実現</p> 

分科会での活動内容と期待される成果

- ① **自立分散型エネルギーの拡大**
 - ・太陽光や風力など再生可能エネルギーの地産地消の拡大
 - ・再エネを貯めて、賢く使う仕組みの拡大
- ② **利便性が高く安全安心な交通網の整備**
 - ・EVなど環境にやさしいモビリティの普及拡大
 - ・最先端技術の活用による利便性の向上
- ③ **島内のにぎわい創出**
 - ・グリーン電力証書の活用等をととした地域の魅力度向上
 - ・島の魅力をいかした観光コンテンツの充実やSNS・動画配信の活用、市内回遊を促す仕組みの構築等によるサステナブルツーリズムの推進
- ④ **取組の情報発信・横展開**
 - ・取組効果の検証と情報発信
 - ・同様の課題を抱える地域への横展開




✓ 低炭素化・防災力強化
✓ 移動の利便性向上
✓ にぎわい創出・経済循環

分科会に参加する団体の様々な知恵やノウハウを加えてプロジェクトを展開・効果UP

分科会メンバー：17団体（五十音順）

(株)いよぎん地域経済研究センター、(株)エス・ピー・シー、愛媛銀行、えひめ住販、太陽工業(株)、長州産業(株)、帝人(株)、(株)デンカシンキ、(福)島寿会、東武トップツアーズ(株)松山支店、トヨタカローラ愛媛(株)、NPO法人農音、富士通(株)、松山市、松山東雲短期大学、三井住友海上火災保険(株)愛媛支店、(一社)をかしや